

減災ソーシャルワーク 避難訓練計画書(実施編)

2016年7月16日(土)15時10分～ 114A教室

参加者：減災SW担当教諭(吉村先生)、履修学生12名、学生サポーター1名、しょうがい学生3名、総務課長(井上)、しょうがい学生支援室(権藤) 計19名

【目的】地震が起きた際に、しょうがい学生とボランティアの人がいかに安全に避難できるか。個々の避難マニュアルを用いて何処でも誰とでも避難するにはどんな情報が必要であり、見てわかるかたち(文章・写真)とはどんなものなのか。

避難訓練実施【共通】

- ・それぞれの避難計画書に沿って4階から3階まで降りる。
- ・避難計画書は、しょうがい学生本人、教員が各1部持っている。
- ・計画を作成したメンバーは、避難の際の移動には参加せず、計画書通りにスムーズに実施されているかを見て記録し、写真や文章などの改善点をあげる。
- ・地震発生→余震おさまる→教員がボランティアをしてくれる学生を特定するため声掛け(必要人数)(ドアを押さえる担当1名)→希望学生挙手→学生ボランティア決定→避難開始
- ・1つの班の訓練実施終了後に、意見交換を行う。そこで、しょうがい学生及び参加者の感想や意見を述べ、改善点などについて議論する。
- ・今回の避難訓練実施において議論した点を含め班ごとに再検討した後、個々の最終版の避難マニュアルを作成し教員に提出する。



① A班 (実施所要時間 5分46秒)

Aさんの意見・感想

・車いすごとの避難がいい。情報伝達はうまくいっていた。1チーム6名のうち3名以上はできれば男性がいい。

A班の意見・感想

Q ボランティアに入った女性でハイヒールを履いていたらどうするか？

A 足元がしっかりしている学生に代わってもらう。

その他の人の意見・感想

・今回、車いすを持ったのは女性が多く、女性だけで車いすごと避難するのであれば、階段の踊り場で休憩をしないと無理がある。

Q 階段が狭いことを考えると全員男性がいいのではないかな。

A 避難マニュアルには、4名中3名以上は男性と記載する。もしくは、本人が全員男性を希望するのであればそれをはっきり書く。

Q 避難マニュアルに車いすで掴んではいけない箇所を書いてはどうか？掴む場所にシールをつけるのはどうか？

A Aさん→車いすにシールはつけない。これで外出もするから。

Q 介助者(ボランティア)の足がもつれるので、1人が先に降りて危ない所がないか、(声掛けの人とは別に)確認した方がいいのではないかな。

A 交代要員がする。

Q 交代要員は先に行くか、後ろから行くかどうかな。

A 先に降りて声掛けをする。

・車いすの前輪が階段に引っかかると危ない。車いすごとの避難の場合、神輿型の体勢になり肩で担ぐとよい。

・階段を降りるときにかけ声がなかった。誰がかけ声をするのか。あと、下で担いでいる人が「後、何段です」と言ってくると助かる。

・後部転倒防止の部分を必ずたたむ。



② B班 (実施所要時間 7分30秒)

Bさんの意見・感想

・11号館の階段ははじめて降りたので怖かった。最初の方は、足が少しはみ出っていたので、降りている時に身体にずれがあって不安があった。担架で持ち上げてもらった後は、頭の方は2人いたので安定していた。ベルトの位置や頭の向きの説明を聞いてもらえる人が1人ほしい。それで体勢を整えてほしい。車イスよりは担架で避難した方がいい。11号館の階段は狭いし持ってもらう人の人数も限られるので体力がいる。みなさんの安全も考えて担架のほうがいいと思う。

B班メンバーの意見・感想

Q 頭にクッションを置いたらいいのではないかな？

A Bさん→クッションを置くと首を圧迫するので置かないほうがいい。

Q ベルトの位置を、どこまでかけるか、何本必要かな？

A 担架についている緑のベルトはマジックが短い。ベルトの位置と本数は要検討。

Q 車イスを持ってくれる人の人数の変更が必要ではないかな？

A 車いす(2名→3名に変更)、テーブルを外すだけでなく荷物も持ってもら(1名)

追加→ドアを押さえる人(1名)

車いすごと避難する場合→ドアを押さえる1名以外に4名×交代要員4名 計9名必要

その他の人の意見・感想

Q 頭の方の肩ベルトを短く持つのはどうか。

A 担架が滑る素材なので平行にしないと身体が滑りずれる。

・階段の電気がつくようであればつける。

・身体のずれは、背中と車いすの間にあてているクッションをはさみこんで埋める。その後ベルトで固定。

・できるだけ広いスペースを確保して車いすから担架に移乗する。例えば、廊下や出入口付近は他の学生も避難するので踏まれる、ぶつかる危険性がある。教室のテーブルやイスを寄せ、広い空間を確保するの
もよいのではないかな。

・ベルトは、担架の持ち手及び下に先に通しておく。

③ C 班 (実施所要時間 15分)

Cさんの意見・感想

Bさんの時みたいにかげ声をかける人がいるといい。担架を持つには3人は必要。最後の移乗の時は、パイプいすには座らず直接手動車いすに座りたい。もう1回、別の日に練習をしたい。

C班の意見・感想

Q 身長が高くないこともあって担架に横になった時にお尻を真ん中にあわせると頭の位置が下の方にきてしまう。担架に移乗した時に身体全体の位置をどこにあわせるか。

A お尻の下にすべり止めを敷いてみる。後は担架のタスキ部分で調整できるかやってみる。

その他の人の意見・感想

Q 3人で担架をかかえていて足側を持っていたが、自分が足側もっていることで頭側の人に負担がかかっているような気がする。2人で抱えた方がいいのではないかな？

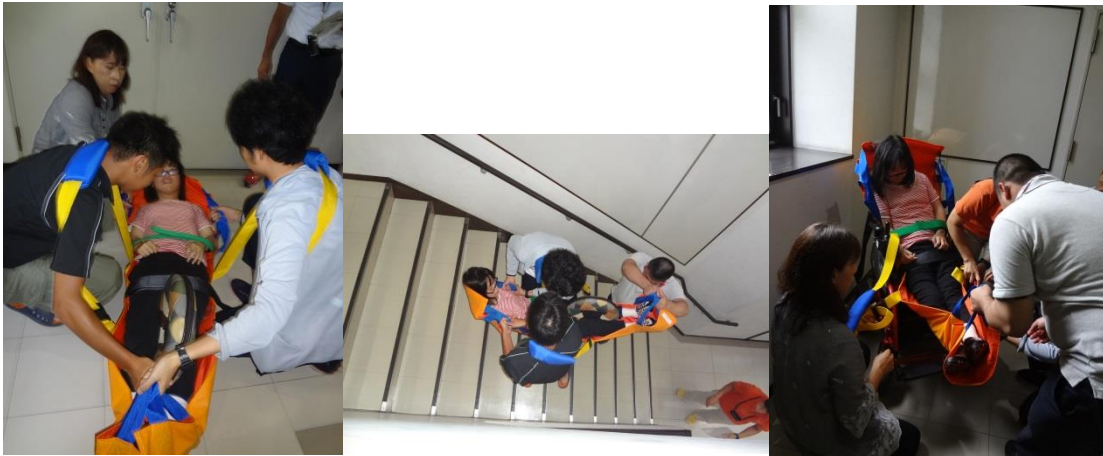
A 要検討。

Q Cさんが避難する時にボランティアは担架のところに集まり1人になっていた。手動に切り替えて誰かと一緒に担架に移乗する場所まで移動した方がいいのではないかな？

A Cさん→手動に切り替えるとタイヤを動かすコツがあるので慣れない人だと逆に時間がかかる。電動で担架の場所まで移動した方が早いと思う。

Q 電動車イスからパイプイスに移乗した際の頭に空間ができる。どうするか？

A パイプイスが動くのでイスの足元部分を踏んでおく。誰かが背後にまわることで、Cさんの上体も支えることができ、イスが倒れないように防ぐこともできる。



大学側 要望、検討課題

- ・避難マニュアルは科目担当教員全員が授業の際に持ち歩いているとは限らない。情報システムの共有をどうするか。
- ・担架付属の緑色のベルト(マジック部分)が短いため、マジックを付け足してほしい。
- ・手順書をどこにつけるか。
- ・滑り止めをあらかじめ担架に入れておくのはどうか。
- ・黒ベルトは、担架とセットにしておくか、個人に必要な本数を貸出して持っていてもらうか。